

IV-36

マレーシアにおける FELDA 開発地域の人間居住環境調査（2）

－ジェシカトライアングルの居住環境分析－

北海道大学環境科学研究科 正員 山村 悦夫

FELD(INPUT)

Addinan Din

北海道大学環境科学研究科 正員 加賀屋 誠一

同 上

太 田 充

1. はじめに

前回の発表では、マレーシアにおける FELDA 開発方式の特徴と、発展途上国での、人口再配分政策の上での意義について述べた。今回は、調査対象地区、ジェンカトライアングルの住民の生活基盤と公共施設の効用水準についての分析結果について概説する。

2. 対象地域の概要と調査内容

本調査の対象地域であるジェンカトライアングルは、半島マレーシアのほぼ中央に位置するパハン州にあり、タマロー、ジャランテ、ト、マランの3都市に囲まれた地域を指す（図1）。人口は1970年に約10,400人、開発が進んだ1980年には約55,000人へと急速に増加し、1983年には約60,000人に達し、現在はこの地域は、38の開発地区からなり、161,774エーカー、16,108世帯、111,728人が定住している。このジェンカトライアングル地帯は、大規模開発で有名であり、また開発計画の拠点として、FELDA 農業公社のバイオ研究所などがある。主な作物はオイルパーム、ゴムで残りはココア、砂糖キビ、コーヒーを生産している。

調査地区は、ジェンカトライアングルの約38の開発地区から開発時期（初期、中期、後期）、開発農業（オイルパーム、ゴム）の2種類のカテゴリーを設定し、6スキムを設定した（表1）。そこから30世帯を無作為に抽出し合計で180世帯でインタビュー調査を行った。インタビュー調査は、マレー語に翻訳した調査表を用いて、先に選定された世帯において、1世帯当たり、平均30分の時間をかけて行われた。インタビューは、年齢、最終学歴、以前の職業、子供の数、教育程度、現在地、出身地、自家用車、オートバイの所有状況、各公共施設についての満足度、現在要求している公共施設、居住環境全般についての満足度、将来5年間での人口・生活・公共施設整備状況・居住環境の変化の予想、入植理由、周辺都市への行動頻度、各公共施設の利用頻度の各事項について行った。

表1 調査対象地区の概要

作物	開発時期	地区名	開発年次	開発面積	作付面積	住宅敷地	世帯数
油 椰子	初期	ウル・ジェンアール	1963/64/65/68	2543.8ha	2357.2ha	144.0ha	569
	中期	ジェンカ 3	1968	2117.0ha	1829.4ha	130.0ha	409
	後期	ジェンカ 19	1974	3116.8ha	2500.7ha	202.9ha	595
ゴム	初期	カンホ・ソ・アワ	1961/62/67	1490.7ha	1387.2ha	85.0ha	334
	中期	ジェンカ 8	1969	2171.6ha	1797.8ha	110.3ha	352
	後期	ジェンカ 21	1974/76	2223.4ha	1826.1ha	136.9ha	436

3. 調査結果の概要

ここでは、主に公共施設の満足度水準について分析する（表2）。各地区ごとの比較では、各地区間の差の最も大きい事項は、職業訓練施設、郵便、電話、上水道、道路、下水道、文化施設、医療施設、防犯対策、子供の遊び場、公園、スポーツ・レクリエーション、宗教施設の順であった。

地区毎の比較で、整備が進んでいる地区は、カンボン・アワで、その項目は、郵便、電話、上水道、道路、下水道、文化施設の6項目である。2番目に整備が進んでいるのは、ウル・ジュンプールで、その項目は、防犯対策、子供の遊び場、公園、スポーツ・レクリエーションの4項目である。この2つの地区は、初期に開発された地区で、実際にもインフラストラクチャが比較的良好に整備されていることが、満足度を高めている。

次に、満足度が最も低い項目数が多い地区は、ジェンカ8で、その項目は、職業訓練施設、文化施設、防犯対策、子供の遊び場、公園、スポーツ・レクリエーションの6項目である。この地区は、1969年に開発された中期開発地区であるが、未だに電気が整備されていないなど、住民のインフラストラクチャの整備に対する期待が高い地区である。

以上を開発地区と開発段階によって、初期、中期、後期の3つに分けてみると、初期開発地区では、上水道、文化施設、下水道、道路、郵便、電話、子供の遊び場に高い満足度を示している。中期開発地区で文化施設、職業訓練施設、郵便、電話、子供の遊び場、に低い満足度を示している。後期開発地区では、上水道、下水道、医療施設、道路で、低い満足度を示している。たとえば、道路、上水道についてみると、非常に満足・満足のパーセントは、それぞれ初期開発地区では、56.7%, 91.7% 中期開発地区では、41.7%, 81.7%, 後期開発地区では、20%, 38.3%と低くなっている。

表2 各地区における施設の有無

施設名	U. Jempol	J. 3	J. 19	Kg. Awah	J. 8	J. 21
小学校	○	○	○	○	○	○
中学校	○	—	—	○	—	—
モスク	○	○	○	○	○	○
産院	○	○	○	○	○	○
集会場	○	○	○	○	○	○
幼稚園	○	○	○	○	○	○
上水道	○	○	○	○	○	○
電力	○	—	—	○	—	—
保健所	○	—	—	○	○	—
郵便局	○	○	○	○	○	○
交番	—	—	—	—	—	—
電話局	○	—	—	○	—	—
協同組合	○	○	—	○	—	—
開発センター	○	—	—	○	—	—
道路施設	T	T	L	T	T	L
公営バス	○	○	○	○	○	○
タクシー・バス	○	○	○	○	○	○
日用品店	○	○	○	○	○	○
スポーツ施設	○	○	○	○	○	○
定期市場	○	○	○	○	○	○
宗教学校	○	○	○	○	○	○
生協マーケット	○	○	○	○	○	○
婦人組織	○	○	○	○	○	○
カ・ソリスサット	—	○	—	—	—	—

注) ○は、あるもの、—は、ないもの

Tは、簡易アスファルト舗装、Lは、未舗装

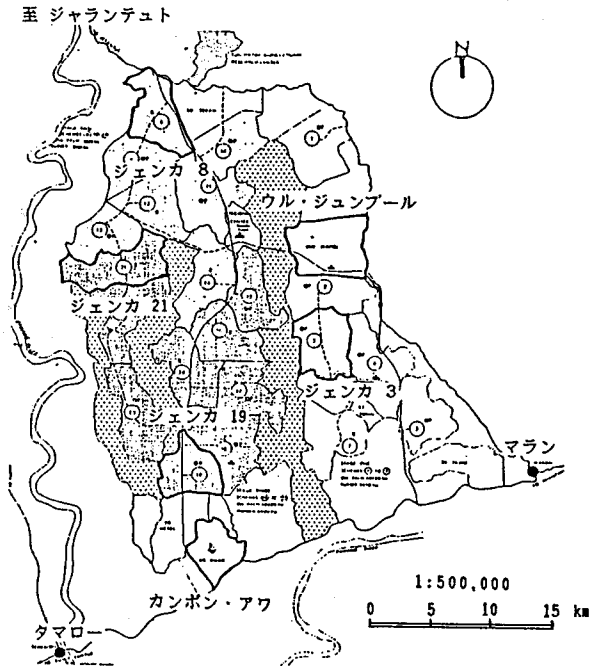


図1 調査対象地区概略図